

データが語る “いま”

本川 裕



第18回

歩く県民、 歩かない県民

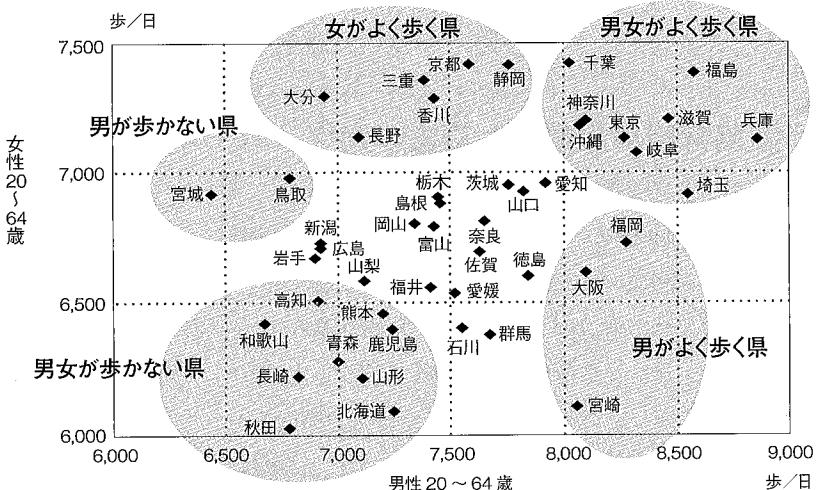
厚生労働省が毎年実施している国民健康・栄養調査では、2012年に大規模調査を行っており(歩数を調べている栄養調査の対象者数は通常8千人のところ、この年は3万2千人)、いくつかの項目では都道府県別の結果が公表されている。ここでは、人が1日に歩く歩数を都道府県別に調べた結果を取り上げてみよう。県別の年齢差による違いは年齢調整によって取り除かれている。

図は、X軸に男性の、Y軸に女性の歩数をとった散布図である。

まず気づくのは、男性は6,000～9,000歩とレンジ幅が3,000歩あるのに対し、女性は6,000～7,500歩と男性の半分の1,500歩しかレンジがない点である。男性のほうが女性より歩数の違いが大きいのである。男性のほうが仕事や通勤手段がまちまちなので、歩数の違いも女性より大きいのではないかと思われる。また、平均すると男性のほうが歩いているが、これは、男は狩猟、女は採集という狩猟採集時代からの伝統を引き継いでいる働き方の男女差のためと考えられる。

次に気づくのは、男女で必ずしも歩数は比例していない点である。男女とともによく歩いたり、歩かなかつたりする県とは別に、男だけ、あるいは女だけがよく歩く県、歩かない県がある

図 都道府県別男女別歩数(2012年)



(注)調査日は11月中およびその前後1週間(10月25日～12月7日)における日曜日および祝祭日を除く任意の1日。歩数計の装着による調査。計測人数は県平均520人(愛知294人～茨城827人)。集計は年齢区分の平均年齢(男女とも45歳)を用いて年齢調整が行われている。

(資料)厚生労働省「平成24年国民健康・栄養調査」

のである。地域環境の違いや県別の男女の気風の違いなどが左右しているのだと思われる。

最後に、県別の特徴を地域をグループ化しながら記述してみよう。

男がもっと歩くのは兵庫県、女がもっと歩くのは千葉県である。この2県は男女がともによく歩く県でもある。男女がよく歩く県としては、関東圏の千葉、東京、神奈川、埼玉、関西圏の兵庫、滋賀、中京圏の岐阜と、東京を除くと大都市近郊県が多くなっている。これらの地域では、公共交通機関を利用した通勤が多く、その途上でかなり歩くのではないかと考えられる。このグループには、福島と沖縄が含まれているが、この2県の男女がよく歩くのは、また別の理由であろう(なぜなのかはわからない)。

男女ともに歩かない県としては、最も女性が歩かない秋田をはじめ、青森、山形、北海道などの北海道・東北地方、

鹿児島、熊本、高知、和歌山といった西南日本の諸県が含まれる。通勤や買い物などでのクルマ移動への依存度が高いためではなかろうかと思われる。長崎もこのグループであるが、離島が多いことも影響しているよう。

女はそれほど歩かないが、男がよく歩く県は、福岡、大阪、宮崎などである。福岡や大阪は公共交通機関での通勤の影響が考えられるが、宮崎は鹿児島や熊本と共に通する環境なのでは想像されるにもかかわらず男がよく歩くのはなぜなのだろうか。宮崎は男がよく歩くわりには、女が歩かない点でも目立っている。まさかとは思うが、宮崎県民は狩猟採集時代の伝統を色濃く残しているのだろうか。

男はそれほど歩かないが、女がよく歩く県は、静岡、京都、三重、香川、大分、長野といった県である。また、女はわりあい歩いているのに男が歩かない県としては、鳥取、宮城があげられる。



ほんかわ・ゆたか

東京大学農学部農業経済学科出身。(財)国民経済研究協会常務理事を経て、アルファ社会科学(株)主席研究員。現在、幅広い分野の統計データをグラフ化して公開する「社会実情データ図録」サイトを主宰しながら、地域調査等に従事。著書に『統計データはおもしろい!』(技術評論社)、『統計データが語る 日本人の大きな誤解』(日経プレミアシリーズ)など。